

協議会ニュース

38号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1992. 3



ヤブツバキ

ツバキ科

光明寺緑地

1992.1.21

竹ヤブの南側

ムクノキの大木の下に
暖冬のせいかな昨年
12月頃から咲いている

淡緑の萼

種子黒褐色で固い

冬枯れの雑木の中を歩いて
いると目は何か緑色を
さがしていて、眼前にツヤやかな
濃緑のヤブツバキの葉を
見つけるとホッとします。
その葉陰で花が輪、二輪と

絵と文 後藤 春

支部総会開催



東三支部

1月26日(日)、豊橋駅前の西武セゾンホールで開催されました。はじめに新しい仲間、梶野保光さんと猪刈雅史さんの自己紹介がありました。和やかな雰囲気の中で議事が進められ平成三年度の事業報告、10周年記念行事の報告や平成四年度の事業計画の議案を全会一致で承認しました。

総会の後は同じ会場で懇親会。最近、女性と見られなくなったとぼやくMさんの乾杯で開宴。中華料理に舌鼓を打ち、アルコールのピッチを上げ盛り上がった会になりました。

奥三河支部

当日の観察会・総会は今冬一番の冷え込みと前夜からの積雪で最悪のコンディションとなり会員の出席が心配されましたが、9名のご出席を頂き予定通り開催することができました。

なお、当日は公私ご多用にもかかわらず、私ども会のために、資料館をはじめ作手高原の泥炭層、県指定天然記念物のイヌツゲ、鬼久保湿原等のご案内をいただきました作手役場の矢頭先生には大変お世話になりました。また、会場の手配等何かと気配りをいただきました地元会員の皆様大変有り難うございました。

会員の皆さん、平成四年度も宜しくおねがいします。(会長)

尾張支部

1月12日、犬山市南部公民館で開催しました。

観察会等の行事計画の協議したほか、支部長業務の分散化を図ることにより、支部長の負担軽減を図ることや支部報を隔月発刊化し、発送業務の軽減と経費の削減を図ることを決定しま

した。隔月発行による情報不足は協議会ニュースの支部のコーナーを活用して補う予定です。

名古屋支部

19人の方々が参加し、会計報告・役員改選・今年の活動予定を協議しました。

全県一斉観察会は6/7に小幡緑地竜巻池緑ヶ池周辺で、県委託も10/11に同じ場所で行うこと等をきめました。

知多支部

1月26日(日)午前10時、東海市文化センターで行われました。参加者は約20名、林務課職員1名でした。

- ・会長挨拶 ・自己紹介 ・91年行事報告
- ・会計報告 ・92年度の観察会、研修会計画の協議等を和気あいあいで行いました。

(以下、編集部)

知多支部の総会資料に「最近取り組んでいる事、近況や気がついたこと」として次のような会員の活動が載っていましたのでご紹介します。
♂ 視覚障害者のボランティアを始めています。

障害者の自然観察を考えてみたいと思います。

♂ 11月に野間海岸のタイドプールで、イソガニに寄生するフクロムシ(ウンモフクロムシ)を見つけました。

♀ 正月に冬の上高地に行き明神池でマガモと遊んできました。途中でタヌキを捕まえて写真を撮ろうとしたが失敗。臭かったけどなかなか可愛かった。

♂ 昨年3月東海市の富木島大池のすぐ横の畑で採餌中のヤツガシラを見ることができ感動しました。

♀ 今年の1月1日に常滑市鬼崎海岸(蒲池)でヒトヨタケ科、ナガタケ属、スナジクズタケが生育しているのを確認。豊田の山田先生に同定して頂いたところ、この地方では珍しく新潟県で確認されているそうです。

行事報告

【土壤生物研修会】

○H 4. 2. 2 於豊田市自然観察の森

土の中にも世界がある。その世界を探ってみようと、豊田市自然観察の森のセンターでハンドソーティングとツルグレン装置を使った研修会を行いました。この研修会は既に4回目で、この日の参加者(8名)の多くも過去に経験のある人が多く、今までの知識を思い出しながらの勉強会という感じでした。講師の松尾・遠藤両氏を中心に、午前中は落ち葉や土をかき分けて目に見える動物を捜し、午後はツルグレン装置から出たダニやトビムシの観察を行いました。ダニといっても振り袖を着たものやかわいい姿をしたものがあったり、なかなか楽しい世界でした。

ただ、土を採取した自然観察の森では、何故か土壤生物の種類が少ないようで、これが季節的な要因だけなのか、それとも地域の特徴なのか判然としませんでした。環境と土壤生物の関係は今後協議会としても取り組んでみたいテーマです。

が必要となってきますが、それが多くの人の知恵や実力を集めて、実りある事業となっていくようにしたいものです。また、今まで以上に会の進むべき方向や自然保護と自然観察のあり方が問題となり、討論する場が多くなってくると考えられますが、それが会の充実につながるよう期待します。

(佐藤)



会員の動き

【運営委員会(運営担当)】

○H 4. 2. 11 於中小企業センター

運営担当のメンバー8名で、協議会の5カ年計画及び平成4年度事業、規約等の改正案について検討を行いました。

今までは、どちらかといえば運営委員会が中心となって協議会の運営を行ってきましたが、今後は事務局の中を4つの部会に分け、それぞれ分担して事業を進めていくことにしました。会が大きくなるに従い、事務の分担

【住所変更】

浅井五六

〒463 名古屋市守山区大森五丁目 2206

エスポワール大森 102

(☎ 052-798-1517)

【脱退】

高木裕子(東三河支部)

藤戸孝亮(知多支部)

私のフィールド

境川河口

西三河支部 宮原 英明（刈谷市）

”兎追いしかの山 こぶな釣りしかの川……”
あの古里はいったいどこに行ってしまったのでしょうか。

私の古里は福岡県の山の中、京都郡豊津町で私は生まれました。少年時代は、テレビゲームはもちろん、テレビのない時代で、学校から帰ると宿題もそこそこに、野山を駆け回り、虫、魚、鳥、植物、化石等の自然に親しんできました。

数年おきに墓参りをかねて家族そろって福岡に帰省しますが、帰省するたびに古里の山や川の変貌を目の当たりにします。水晶を採った山が、カブトムシをつかんだ山が、多くの古墳群のあった山が無惨にも崩され、道路が走っていたり、ゴルフ場ができたり、宅地と化したり、昔、水遊びをした清流がどぶ川のように変わり果ててしまった。そんな姿を見て胸を痛めます。

第4次全国総合開発計画の「リゾート開発」によると、日本の美しい国土の19.2%がリゾート構想の特定地域になっています。リゾート企業の金儲け主義により、ゴルフ場・スキー場・海洋スポーツ等、「開発」という名のもとで自然破壊が行われ、環境問題は連日のようにマスコミで取り上げられています。

”……山は青きふるさと 水は清きふるさと”
そんな古里がいつまでも日本に残されるようにと思い続けています。

前置きが長くなりましたが、昨年の秋に講習を受けて、皆様のお仲間入りをさせていただきました。宜しくお願い致します。

山の中で少年時代を過ごした私は海に憧れ、九州を離れた後、伊豆大島で9年間生活し、その後、11年前に愛知県に移り住みました。

自宅から1キロ程離れたところを流れる境川をずっと眺めてきました。その間に日本自然保護協会や西三河野鳥の会の仲間に加えていただき、自然の見方や接し方、考え方等を学ばせていただきました。

私のフィールドの境川河口を皆さんにご紹介します。

境川はその名のように、三河と尾張の境界を流れる川で、西加茂郡三好町黒笹（右岸）および、豊田市田根町（左岸）を源流とし、刈谷市南部・衣浦湾へと注ぐ全長約40km、流域面積約224km²の河川です。境川が注ぐ衣浦湾は、猿渡川、逢妻川、五ヶ村川、前川等が境川と合流して流れ込んでいます。

この境川等が流れ込む衣浦湾北部一帯を総称して、野鳥愛好家は境川河口と呼んでいます。この地は干潮時には広い干潟が出現し、春と秋には、シギやチドリ類の渡りの中継地となり、その数は数千羽を数えることができます。また、西三河有数のカモ類の渡来地としても知られています。

刈谷市では、北部の草野池周辺とこの境川河口が野鳥観察の好適地で、渡り鳥に限らず、四季折々に野鳥を観察することができ、野鳥愛好家の姿を見かけることが多い場所です。境川河口周辺は田圃や畑の耕作地となっていて、野の花、昆虫、小動物等が見られます。また、釣り人もよく見かけ、コイ、セイゴ、ボラ、ハゼ等が釣れるようです。干潟にはゴカイが多く、ゴカイ採りの業者の方がゴムズボンをはいてゴカイ掘りをしているのも境川の風物詩です。

1980年4月に境川河口周辺の農地の一部は、流域下水道施設建設のために愛知県によって強制代執行が行われました。反対農民が座り込みをする中を愛知県警機動隊に守られた県職員が杭打ち作業等を行いました。それから12年、境川河口には流域下水道の近代的な施設が建ち、業務開始もあとわずか、境川はいま大きく変わろうとしています。

ではもう少し詳しく、境川河口の野鳥について、季節を追ってご紹介しましょう。

..... 春

農耕地には菜の花、レンゲ、タンポポが咲き、ツクシ摘みをしている家族連れがたくさんいます。干潟には、メダイチドリ、キョウジョシギ、トウネン、チュウシャクシギ、ツルシギ等がゴカイやカニ、貝を漁っています。特に、夏羽にかわったツルシギの真っ黒な姿は『境川の貴婦人』と形容したいほどです。

..... 夏

衣浦湾の上空に人道雲が現れる頃、スマートなコアジサシのダイビングする姿が見られます。この時期は、川面や干潟よりも耕作地が面白くなります。アシ原や田畑にはオオヨシキリ、セッカ、ヒバリのさえずりがよく聞かれ、キジやバン、ケリが子連れで餌を採っています。夏の終わりには、日没前から数千羽のツバメが、どこからともなくアシ原にやってきて、ねぐらにしています。日没前後にはヨシゴイの「オーオー」と鳴く声が聞こえます。また、ヒクイナの鳴き声も夜中によく聞かれます。

..... 秋

モズの高鳴きが乾いた空に響きわたる頃、カモの飛来が始まり、干潟には南国へ渡る途中のシギやチドリが栄養補給や休憩をし、水辺は賑やかになります。農耕地には渡りの途中のヒタキ類やムシクイ類が竹竿や杭の先っぽにとまっています。灌木にカエルやバッタ等のモズのはやにえがよく見られるのもこの時期です。

..... 冬

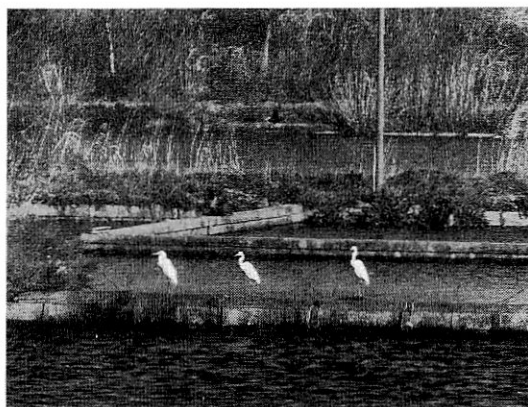
日に日にカモ類やユリカモメの数が増し、雪をかぶった恵那山や鈴鹿の山々が見られ、『伊吹おろし』が境川にも吹いてきます。数百羽のハマシギの群れ、オナガガモ、キンクロハジロ、コガモ、カルガモ、ホシハジロ等のカモ類やサギ類、また、オオタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサ等の猛禽類もよく見かけるのが冬です。陽だまりの養魚池の南側の堤防には、ゴイサギが群れをなして日向ぼっこをしています。

いつの季節でも、境川と農耕地の間を流れる用水路には、カワセミの姿を見ない日はないくらいです。境川河口をさらに南下すると、高浜市吉浜町になりますが、この辺りは養魚場や貯木場、貯木池があり、カモ類、シギ・チドリ類、サギ類、バン等をゆっくりと観察することができます。

年間を通してバードウォッチングが楽しめる境川河口で、毎月第2日曜日に自然観察会を行っています。野鳥観察が中心ですが、耕作地周辺の植物や小動物等の観察もしながら楽しんでいます。参加される方は、親子連れやご年輩の方等さまざまで、10人前後の小規模な観察会です。会則も会費も代表も全くなく、誰でも自由に気軽に参加できる会です。昨年の秋から、『境川通信』（月2回発行）を発行し、観察会に参加された方に郵送しています。観察会やこの『境川通信』を通して、境川の自然に親しむとともに、環境問題や自然保護について一緒に考えていこうと思っています。

是非一度、境川河口においでください。

『境川通信』の最新号を次頁に載せますので、ご覧ください。昨年1年間に境川河口で観察できた野鳥の月別リストです。境川でバードウォッチングされる場合は、ご利用ください。



境川通信

No. 7 1992. 2. 5

発行：境川自然観察会
連絡先：刈谷市小垣江町須賀68-2
宮原 英明 TEL 23-8223

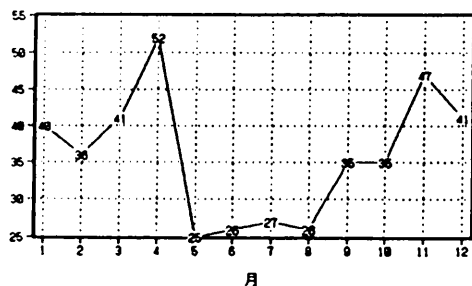
1991年 境川河口の野鳥

昨年1年間に境川河口で77種の野鳥を観察することかできました。右の表はそのリストです。このリストがあれば、どの時期にどんな野鳥が境川にいるか分かりますね。

境川にお出かけの時にはこのリストをご活用ください。そして、バードウォッチングを楽しんでみてください。

なお、このリストは毎月の境川自然観察会で確認した野鳥を基本にして、『KERI』（西三河野鳥の会機関誌）の「鳥情報」（山本晃氏、杉山時雄氏の猛禽類の情報）を一部使わせていただき、まとめたものです。

1991年 境川河口 野鳥の種数の推移



アオサギ

種名/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カンムリカイツブリ			○									
カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴイサギ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
ダイサギ	○		○	○				○	○	○	○	○
チュウサギ							○					○
コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アオサギ	○		○	○				○			○	○
マカモ												○
カルカモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コカモ	○	○	○	○						○	○	○
ヨシカモ											○	
オカヨシカモ	○	○	○	○								
ヒドリカモ	○	○	○	○					○	○	○	○
オナカカモ	○	○	○	○						○	○	○
ハシビロカモ	○	○	○	○							○	○
ホシハシロ	○	○	○	○					○	○	○	○
キンクロハシロ	○	○	○	○					○	○	○	○
スズカモ		○										
ミサゴ								○		○		
トビ	○	○	○			○	○	○			○	○
オオタカ	○		○							○	○	○
チュウビ				○					○	○		
ハヤブサ	○	○									○	
チョウゲンボウ	○									○	○	
キジ	○			○		○	○	○	○	○	○	
バン		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
ツルクイナ						○						
コチドリ						○	○	○				
イカルチドリ							○					
シロチドリ	○			○					○		○	
メダイチドリ				○								
タイセン				○								
ケリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タゲリ	○	○	○								○	○
キョウジョシキ				○					○			
トウネン				○					○			
ハマシギ	○	○	○	○						○	○	○
サウルハマシギ				○								
ツルシギ				○								
タカフシギ				○						○		
キアシシギ									○			
イソシギ	○			○					○	○	○	○
チュウシャクシギ				○					○			
ヨリカモメ	○	○	○	○					○		○	○
セクロカモメ	○	○	○	○							○	○
オオセクロカモメ												
カモメ		○	○	○								
ウミネコ				○							○	
アジサシ				○	○							
コアシサシ				○	○	○	○	○				
キシバト				○	○		○	○		○	○	○
コミミスク			○									
カウセミ		○								○	○	○
ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セクロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒンスイ		○	○									
ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モズ	○	○	○						○	○	○	○
ショウヒタキ											○	
ツクミ	○	○	○	○						○	○	○
ウクイス	○	○	○	○						○	○	○
オオヨシキリ				○	○	○	○	○				
セッカ					○	○	○	○	○	○		
ツリスカラ				○								
ホオシロ	○			○					○		○	
アオジ			○								○	
オオジュリン	○	○									○	○
カワラヒワ	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○
スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ムクドリ	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシホソカラス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシフトカラス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
樺化種・ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
園上・ベニスズメ												
合計	48	36	41	52	25	26	27	26	35	35	47	41

私のフィールド

名古屋支部 浅井聡司

名古屋支部では、平成2・3年度の2年間にわたり、名古屋市天白区の郊外にある針名神社周辺の観察会を、隔月、一年に6回、計12回実施してきました。

針名神社は秋葉明神・農業センターが隣接し、周辺にはコナラ・アベマキを主とする雑木林の中にツブラジイ・アラカシ・アカマツ・モウソウチクの林が混在し、雑木林の周りには、農地が広がっている。また、周囲2キロ程の荒池には、四季をとおして野鳥がおとずれる。名古屋市内にあって、変化に富んだ自然が残されている。

針名神社の入口では、季節に応じて小鳥たちの出迎えがある。スズメ・コゲラ・ムクドリ・ヒヨドリ・キジバト・モズ・シジュウカラ・メジロ。社叢は、樹高20m胸高直径40cmをこえるコナラ・アベマキの優占する林で、林内にはこの地方の分布する主要な樹種があり、さながら自然樹木園である。ドングリ拾いには絶好の場所である。また、鳥獣保護林に指定され、小鳥が繁殖している。

針名神社をすぎ、秋葉山の参道を登る。参道の両側はシダレウメが植えられ、境内の裏手にはツブラジイの大木が、14・5本あり、薄暗い林をつくっている。秋葉山のふもとには、小さな墓地があり、春になると色とりどりの野の花が咲く。

ノジミレツクシにまじりて春の色

秋葉山から竹藪をぬけて、農業センターに出る。農業センターの前の休耕地では、毎回野草の観察をする。一年を通して咲く花を記録するためだ。やはり、帰化植物が目立って多い。センターのフェンスには、ムベがあり、秋の観察会では決まってメニューに加えられる。

農業センターの北側は、2年目が宅地造成が始まり、その切り通しからは、陶土・亜炭・みがき砂・高師小僧が出土し、この地域の地層の

ようすが観察できる。宅地の路地を通り抜けると、荒池に突き当たる。

荒池は、周囲に葦原ひろがり、四季を通して野鳥観察の絶好の場所である。カルガモ・コサギ・カイツブリ・カワウは常時観察でき、6月にはヨシキリが営巣し、カッコウの鳴声が聞かれるのも、名古屋市内ではここだけである。9月には、雨にぬれ衰弱したアオアシシギを保護した。水辺は釣り人も絶えない。

荒池を過ぎると、雑木林で取り囲まれた畑地が広がる。ここには一昔前の田舎の風景が残されている。また、四季に応じて作られる野菜の彩りが旬の香りを感じさせる。またここは、畑地の雑草の観察ができるところでもある。畑地を抜けると、再びコナラ・アベマキ・アカマツの雑木林に入る。この林を観察していると、木々が更新していく様子がわかる。雑木林の一部は放棄された果樹園のようで、カキ・クリ・クワの木が混在し、夏や秋になるとその実りは、私たちのメニューになり、味覚の観察が楽しめる。林を抜けると、小さな池があり、池に近づくとウシガエルが翔びはねる。

最後は、農業センターの裏を通り、針名神社にたどりつく、約2時間半の観察コースである。梅が咲き、桜が咲き、若葉が繁り、虫の季節を迎え、鳥が巣づくり雛を育て、セミの声、コオロギの声、実りの季節にキノコがでて、紅葉、冬枯れの風景。この自然も宅地造成のために、大きく変えられようとしている。

2月9日の観察メモより

本日観察できた鳥リスト

ジョウビタキ・シジュウカラ・ウグイス・オオジュリン・セグロセキレイ・ハクセキレイ・モズ・スズメ・カシラダカ・ヒヨドリ・ハシブトカラス・キジバト・コガモ・ヒドリガモ・カイツブリ・ゴイサギ・カワウ・メジロ

1 はじめに

数年前より、東海市におけるヌートリアの情報が入り始めていたが、今年になって多数の目撃情報が相次いだ。そのほとんどは富木島地区内で私の勤務する船島小学校の前を流れる上野新川の水系においてである。私も1月17日に2頭（雌雄とおもわれる）が仲良く草をはむ様子を写真におさめた。

生息数はどの程度か、まだ推定はつかないが、本来夜行性のこの動物が昼間も活動する繁殖期（らしい）とはいふものの多くの人の目に付き始めてきたことは大変興味深い事実である。

そこで、これまでの観察の結果などをとりあえず概略的にまとめておきたいと思った。

2 ヌートリアの生活史

ヌートリアは昭和の始めごろ毛皮獣として我国に移入され、特に軍用毛皮として活用された。その後、終戦により飼う人もなく処分または放置された。その際逃げ出したものが野生化し繁殖して各地で問題になっている。現在、繁殖地は北海道、南方島しょ部をのぞく全国に分布するが局所的である。水辺に住み、よく泳ぎ、潜りもうまい。通常は単独生活をし、夜間から早朝に活動する。日中は土手などに作られた洞やヨシの茂みなどに潜んでいる。しかし、繁殖期をむかえた個体は昼間も盛んに活動する。1年中繁殖し、同じ個体が1年に2回出産、100～130日の妊娠期間をへて、普通5子を生む。

（10子を生んだという記録もある）南アメリカ原産で世界各地に輸出され、野生化している。頭胴長50センチ、尾長35センチ、体重7～9キログラムもあり鼻先から尾の先までを伸ばすと1メートルにもなる大ネズミである。植食であるため農作物に被害を与えることがある。

良く似たものにマスカラットがいる。北米原産、関東地方の一部に帰化している。

日本には、よく似た環境にカワウソがいた。

3 情報の整理

（1）全国的な情報

- 昭和6年 高松の宮がドイツから持ち帰る。
14年 神戸動物商川島淳三がアメリカから160頭輸入し増殖の基盤を作る。
19年 本州、四国、九州で4万頭が飼育。
30年 岡山県児島湾干拓地で食害。
38年 狩猟指定、岡山、広島、京都、神奈川で捕獲される。
45年 岡山市で807頭捕獲される。

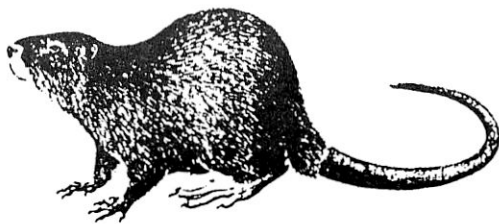
（2）愛知、愛知周辺の情報

- 49年1974 1頭捕獲（狩猟統計）西尾市矢作川流域に生息、状況不明。
78年 三重桑名 毎日12・18
80年 三重桑名 中日3・8
岐阜海津郡、羽島郡、木曽川に生息。
92年 1・16岐阜羽島市中日読者写真。
91年 1月岐阜市民放日本列島四季物語。

（3）東海市の情報

- 90年 3・19昼大田川東海商業北1頭
90年 6月夜上野新川らしきもの1頭。
91年 6月夜富木島大池2頭。
6・29上野新川水中死体1頭。
10・22大田川死体1頭。
92年 1月上野新川伏見歩道橋東水門脇2頭繁殖中か。17日写真撮影。
2月 目撃情報多数。死体1頭。

付記 かつて知多半島に於いても飼育の事実があるが現在東海市に生息しているものとの関わりはないと思われる。



ヌートリア「アニマル・ウォッチング」安間から

自然観察施設訪問 5

千葉県生態園

中西 正

千葉県立中央博物館は、日本有数の自然史博物館である。その一部に生態園（エコロジカル・パーク）がある。世界有数の生態学者である沼田真先生の構想だけに、ユニークな施設である。現在は中央博の館長である沼田先生にお目にかかった後、この生態園を見学した。

広さは、池を含めて6.6haの面積である。中は、植物群落園、野鳥観察舎、植物分類園、食草園、生態実験園というようにいくつかのゾーンに分かれており、入口にはオリエンテーションハウスが建てられている。分類園、実験園については、工事中ということで今回は見学できなかった。

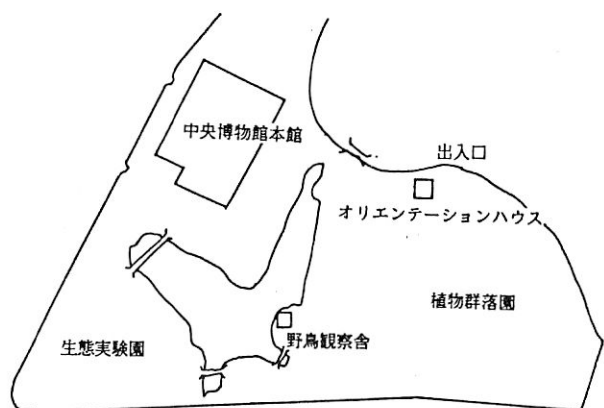
オリエンテーションハウスは、いわゆるビクターセンターで、園内の環境情報をリアルタイムで流したり、見どころや自然観察会等の案内をしている。この中で見学していると、職員が寄ってきて説明してくれた。サービス精神にあふれているようだった。

群落園には千葉県の植物群落がそれぞれ海岸植物群落からタブ林、モミ林に至るまである。また、ススキ草地や湿原も造られている。ただ、つくられてから時間が浅いために、それぞれの群落の特徴を表すには至っていない。池の周辺には手が加えられてなく、クヌギ林でヒサキ・コナラ・ヤツデなどがはえている。池には水鳥がおり、周囲の林には小鳥類が見られる。これらの野鳥観察のために野鳥観察舎が作られている。池に面した窓は半分以上ブラインドで覆われ、狭いすき間からプロミラー観察をする。また野鳥相談員が常駐し、観察者の質問に答えられる体制になっている。この小屋には靴を脱いで入らなければならない。これは、自然を覗かしてもらうという心構えをつくるためか。

パンフレットによると、この生態園は生態学

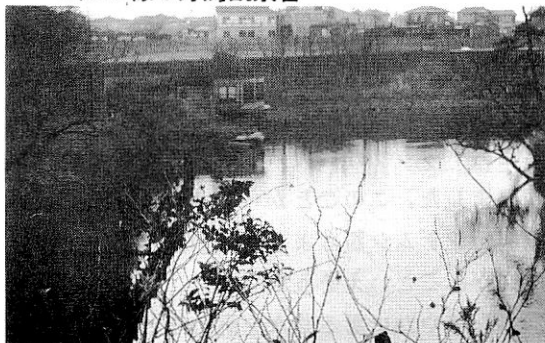
にかかわる、調査研究をするところと位置づけている。園内の動植物はすべて生きた標本ともいっている。植樹した中にセイタカアワダチソウがはえていても、これを展示物にして標識と説明をつける大胆さがある。このことは、並でない博物館の分館で、半端でない施設の証左であるといえよう。

中央博物館は、この生態園の様な実物を見えるための分館を県内に持ち、ネットワーク化しているという。



▲植物群落園

▼池の縁の野鳥観察舎



風 紋 -- 風が作る砂の造形 --

東三河支部 高橋 康夫

乾いた砂浜で、少し強い風が吹くと砂粒がサラサラと動いていきます。風が治まったあと、なみのようにゆらめく美しいもようが浮かび上がります。これを「風紋」と呼び、何となく情緒のある言い方ですし、「リップルマーク」と呼ばれ、リップルはさざ波、マークはしるしと訳せば分かりやすい言い方です。

断面で見ると片方は急で、もう一方がゆるやかな傾きを持つ山と谷のくり返しが続いています。

どうして、こんな模様ができるのでしょうか。それは風が吹くとき、乾いた砂のうち軽いものは浮いて早く飛び、重いものはゆっくり転がっていきます。こうした粒の異なる砂の動きによって風紋ができると考えられています。まさに砂が作る造形と言えます。

風の向きや強さにより、どのような模様になるのか調べてみると面白い課題になります。このような模様が砂浜だけでなく、水の底にも作られることがあります。これによって水の流れの方向を知ることができます。

また、地層の中からこのような模様が見られれば、漣痕（れんこん）と呼び、地層が堆積したときの当時のありさまを知る手がかりとなります。



「豊田市自然観察の森」からの便り

森の掃除屋ーオサムシ・シデムシーのはたらき

尾張支部 長尾 智

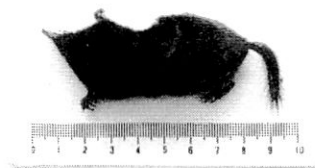
昨年の4月16日、観察路上でヒミズ（モグラの一種）の死体（写真1）を発見しました。2日後にも再び出会いましたが、その時には、オオサムシやハエが群がっていました（写真2）。オオオサムシは、新鮮なヒミズの肉をムシャムシャ食べていました。食べ残した肉は、ハエの幼虫が片付けてしまったことでしょう。

死肉に集まる昆虫の中には、オサムシ類の外にシデムシ類がいますが、それは新鮮なヒミズの死体には見つかりません。シデムシ類は4月中旬にはベイトトラップにかかっていますので、越冬状態から抜け出てはいるようです。

このトラップには強い腐敗臭のするイワシを使いました。このことから、オサムシ類は新鮮な肉、シデムシ類はより腐敗の進んだ肉を好む傾向があるといえそうです。

春を華やかに彩る草木を眺めると共に、この

地味な森の掃除屋たちが活躍している様子も探しながら歩かれてはいかがでしょうか。



観覧会報告

尾張支部月例観覧会 (12月8日)

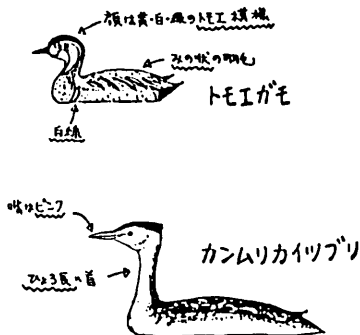
『木曾川堤野鳥観覧会』

場所 — 海部郡立田村県営葛木渡船場付近

参加者 — 指導員8人、友の会4人、子供3人

少しガスがかった曇りながら、暖かくて探鳥日和。この木曾川堤は、風景が江戸時代そのまま・自然堤防と中州のクロマツ、背景にうっすら養老山脈、そして主役のカモ達・息づいている感じで、本当にのんびり探鳥できるとっておきの場所。

数千羽のカモ達がゆったりと流れに身を任せ時々飛び立っては少し上流に着水。またゆっくり流れ下るの繰り返し。



圧倒的に多いのはマガモでカモ・コガモ・オナガガモも多く混じる。珍しいトモエガモが20羽程見られ、皆の注目を浴びる。このトモエガモがこの木曾川の名物。

暖冬のせいか例年多く見られるアイサ類(ミコアイサとかカワアイサ)が1羽ずつしかいないのが、今年の特徴。皆に好評だったのがカンムリカイツブリの白く長い襟足。

カモ同様、私たちものんびり気分では昼食を食べてからシジミ採り。楽しい探鳥会となった。～勿論、シジミは北岡家でも夕食の味噌汁の具として登場。一番たくさん収穫したのは・もち松尾家・料理の味やいかに～

◆野鳥目録◆

カイツブリ・カンムリカイツブリ・カワウ・マガモ・コガモ・オオヨシガモ・カルガモ・オナガガモ・トモエガモ・ミコアイサ・カワアイサ・ホシハジロ・キンクロハジロ・ホオジロ・カ

シラダカ・カワラヒワ・スズメ・モズ・ヒバリ・タヒバリ・ハクセキレイ・ムクドリ・ケリ・シロチドリ・ハマシギ・コサギ・ダイサギ・アオサギ・ゴイサギ・ヒドリガモ・ユリカモメ・カモメ・セグロカモメ・オオジュリン・ハシボソカラス

尾張支部月例観覧会 (1月12日)

『犬山市善師野観覧会』

場所 — 犬山市善師野(駅～白山神社～北洞池～大洞池～駅)

参加者 — 17人

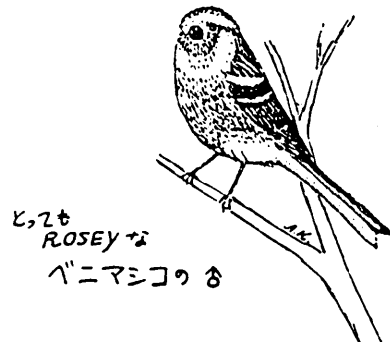
今日のテーマは、里山の小鳥の観覧。

駅から踏切間の川が三面コンクリート張りに改修中でホタルは絶望的。ヨーロッパではコンクリート護岸を壊して、自然堤防化しているというのに・・・。

白山神社の休耕田に鳥達が集まり、カシラダカ群・シロハラ・ツベニマシコ2♂1♀がみられた。アキニレ大木に止まり、みをついばむ姿を全員が堪能。英名Rose Finchの由来、バラ色の腹部に大喜び。大洞池上空を飛んだノスリに加え、最後に駅上空をオオタカが飛び終了。

◆野鳥目録◆

スズメ・ムクドリ・キジバト・ハシブトガラス・ハシボソガラス・カケス・ウグイス・ホオジロ・アオジ・カシラダカ・ベニマシコ・イカル・メジロ・エナガ・シジュウカラ・コゲラ・アカゲラ・ツグミ・シロハラ・ルリビタキ・モズ・ノスリ・オオタカ・ヒヨドリ・トビ・セグロセキレイ・キセキレイ (27種)





21世紀あいち万博予定地 ～海上の森～

ものみ山だより

尾張支部 北岡由美子

海上の森は、冬から早春にゆっくり変わりつつあります。昨年まで堅かった樹々の芽は新年をむかえると途端にふくらみはじめ春への始動を私たちに教えてくれます。カニのはさみのようなオオカメノキの裸芽、花芽と葉芽がはっきりわかるクロモジ。いまにも開きそうなダンコウバイの花芽。ガマズミ類の芽も大きくなりました。様々の芽だしは、両手を合わせてお祈りしている手のよう・・・と言うひともおり、そういわれれば、春を待つ神聖な想いを樹々の芽だしは私たち人にも共感させてくれるようです。

冬の雑木林は、いままで気がつかなかった山の樹々の丸さや、葉に隠れて分からなかった樹皮の特性や樹の癖もよくわかり、1本1本の樹とお友達になれそうな気分でもあります。すこし小高い丘に登ると、目の前に雑木林が広がり樹々が微妙な線を描いてまるで雑木林の”海”のようです。その向こうが町の建物の”海”でその向こうが本当の海で冬は3つの”海”が楽しめます。

雑木林の海の中には、野鳥たちが群れ、キウイタダキ・ルリビタキ・マヒワ・シジュウカラ・エナガ・コゲラ・ウソ・イカル等1日20種類程度観察でき、(日本野鳥の会・愛知県支部が1月より毎月第2日曜日に定例観察会を行ってくれることになりました。)海上の森ではオオタカの姿も見られます。

コナラ等の樹々にはヤママユ・ウスタビガもぶら下がり、この一切の命が一瞬にして奪われる事を思うと胸が痛みます。如何にしたら残るのでしょうか。



ウスタビガの繭
(別名ツリカマス)

～犬山発自然情報 Naturing NO. 24、2/4～

大竹 勝 発行より

カワウの情報

1月30日、東大演習林の小島宏さんが長坂の大黒上池でカワウ16羽を観察されました。こんな小さな池にこんなに集まって魚がいなくなるのではないかと心配されます。コガモも多数いたそうですが、小島さんの話では中島池が工事中とのことで移動したのではとのことです。カワウは丸山の徳ヶ池にも出没しています。この分では犬山の池はすべてカワウのテリトリーになったかも知れません。

ネコヤナギが芽吹きました

1月31日、塔野地の水田の近くでネコヤナギの芽が大きく膨らみ、所々赤い芽鱗を押し上げて白銀の花芽が顔をのぞかせていました。この姿をみると、もう春だという実感が湧いてきます。この冬はあまり冬らしい日がなく、立春を迎えてしまいました。案外、春遅くに寒波がくるかもしれません。

トラツグミ遭難

トラツグミはあまり昼に活動しないのであまり目にすることはありませんが、2月1日ガラスに衝突して死んでいるのをモンキーセンター学芸員の三戸幸久さんが園内で見つけました。この10年位の間にトラツグミが4羽も同じようにガラスに激突して遭難しています。今まで園内のガラスに衝突した鳥はツグミ・シロハラ・カッコウ・メボソムシクイ・ジョウビタキ・ルリビタキがそれぞれ1例づつあります。このうち助かったのは、体力のあるカッコウだけでした。いずれも夜から早朝にかけての事故のようで、朝開館の時に発見されます。どうも後方の景色がガラスに写っているため、前方に障害物がないと思ってガラスに衝突するのではないかと考えられます。山の中に建築するとき、この様な事故の起きないように注意したいものです。

尾張支部通信（1月）

尾張支部長 鈴木成和

私の役目も、もうすぐ1年になろうとしております。

この1年、観察会活動とは別に、私なりに環境問題に関わりをもってきました。この1年、そしてそれ以前も含めて私が環境問題として強く関心を持ちつづけています事柄を書き出させていただきました。

◇長良川河口堰問題

すでに賛否を問う段階ではなくなっている。

◇原発の問題（細管破綻事故及び古和浦における芦浜原発建設に関するもの）

問題点が先送りされ、住民間の対立を引き起こしている。

◇藤前干潟の問題（ゴミ問題も含めて）

すべての人が関心をもち解決していかなばならぬ問題。

◇都市近郊林の開発に関して

都市近郊林の広範な開発は私たちの生活環境破壊に他ならないことに早く気づく必要がある。

◇中部新国際空港に関して

多くの生物がダメージを受けると考えられる。海流の停滞等で水質悪化が起きる。

◇酸性雨による森林や土壌への影響

すでに各地で被害が出つつあることを認識すべき。・・・・・・

これらの中で、今私が最も気掛かりなのが酸性雨に関するものです。

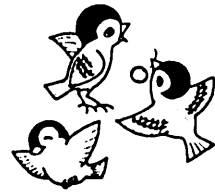
酸性雨被害は、今は特定の地域に限られているようです。しかし、酸性雨がこのまま降り続くと西日本では、10年程度で土壌のアルミニウムイオンが溶けだすであろうと予測されています。（東京農工大・戸塚）

環境問題への意識は日に日に高まっているようですが、この90年代のうちに相当な意識そして行動の変革がなされなければならないと思います。もし土中のアルミニウムイオンが溶けだす事態になれば、広範な森林破壊が一挙に置

きはじめるではないでしょうか。

また、酸性物質の中でも硝酸イオンは土中のミネラル分を溶かし易い性質があるとのことであり、植物の栄養素であるミネラル分の減少から、慢性的栄養不足が起こることが予想されます。そして逆に硝酸イオンそのものは、根から余分に栄養素として吸収され、窒素分だけ「偏食」状態になるとのことです。ドイツの「黒い森」が枯れた原因として、現在はこの「硝酸イオン説」が有力視されているということです。

現在日本で降っている酸性雨の程度はヨーロッパとほぼ同じ程度ともいわれています。日本は元来酸性土壌であり、被害は出にくいとも言われています。しかし各地で被害が起きつつあり、今後、最重要課題として考えていく必要があると感じています。



会員の活動から

『愛知県植物誌調査会』の活動と協力要請

愛知県でもいたるところで自然が破壊され、植物が次々と姿を消しています。このかけがえない自然を守るため、標本資料に基づく科学的データとしての植物誌をつくらうとして結成された会です。1992年から調査を開始し1997年に植物誌を発行する予定です。

会のセンターは愛知教育大学生物学教室で会長は井波一雄さん、実行委員長は芹沢俊介さんで多くの本会の会員も参加しています。

この活動の趣旨に賛同し、ご協力頂ける方は下記までご連絡ください。

〔連絡先〕

村松正雄 〒448 尾張旭市桜ヶ丘町北59
☎0561-54-8681

新聞スクラップ

愛知県内の名古屋版・三河版などのローカル版に載った自然に関わる記事を紹介します。

◆都心を散歩？オオコノハズク◆

名古屋市中区三の丸の官庁街で25日朝、木立の茂みにうずくまるオオコノハズクが一羽見つけた。ふだんは山地の林や寺社の大木にすみ秋から冬にかけて暖かい所に移動する習性がある。日本野鳥の会の辻淳夫さんの話では「国内移動の途中だったのでは・・・」

(91.12.25 中日)

◆水鳥の楽園に脅威◆

渡り鳥の飛来地として知らる名古屋市港区の藤前干潟で8日までに、水鳥の生態を脅かすプラスチック粒が大量に見つかった。藤前干潟を守る会の調べでわかったもので、鳥が餌と間違え食べて死んでしまう恐れがあり、アメリカはじめ国内でも最近その危険な存在が指摘されている。藤前干潟での大量発見に関係者はショックを受けている。(92.1.8 中日)

◆受難のため池に救いの水◆

都市内のため池の価値を見直して、名古屋市は14日から開かれた市議会ではため池保全要綱を制定して、4月1日から施行する意向を明らかにした。ため池は都市災害(水害)を防ぐ治水をはじめ自然環境や景観、歴史上から再認識されているのを受け、市が買い取ったり、管理費用を補助できるようにする。(92.1.15 中日)

◆6年連続暖冬◆

渥美半島などに続いて名古屋市でもタンポポが咲き始めた。名古屋地方気象台は8日に開花を確認。平年より64日も早い。名古屋でのタンポポの開花は、観測をはじめてこれまで最も早かったのは昨年の1月31日。(92.1.17 朝日)

◆冬空にヒカンザクラ満開◆

豊橋市多米町の多米トンネルを抜け湖西市に入った峠道のそばにヒカンザクラ3本ピンクの花を咲かせている。18日現在、すでに1本は満開、のこりも5分から7分咲き。例年は1月末なのに暖冬のせいで早い開花。

(92.1.20 朝日)

◆冬茂る落葉樹、季節感狂う街◆

寒の最中に、名古屋の都心でプラタナスやシダレヤナギ、タイワンフウなど葉の茂った街路樹が目につく。名古屋市緑化推進課は、原因としてまず暖冬をあげる。次に街路灯などの光。

(92.1.24 朝日)

◆自然との共生を考えよう◆

県の鳥・コノハズクや絶滅の危機にあるニュージーランドのカカポをテーマに、人間と自然との共生を考える「親と子の野性動物コンベンション・カカポと仏法僧を救おう」が5月4日豊橋市総合動植物園で開かれる。

当日はカカポの現況に詳しいオークランドの動物園関係者らと日本の研究者がシンポジウム形式で「共生」について考える。

(92.1.24 中日)

◆スギ花粉、飛散はじまる◆

豊橋保健所は屋上に設けた花粉捕集器でスギなどの花粉飛散状況を調べているかこのほど、昨年より2日はやく10日にスギ花粉を初めて観測した。

(92.2.13 東愛知)

◆白イノシシわなに◆

鳳来町の山奥でこのほど、全身白い毛におおわれたイノシシが射殺された。15日鳳来寺山自然科学博物館が引き取った。突然変異のアルビノらしいが、松井館長は「こんなイノシシみたことがない。全国でも初めてでは」と驚いている。

(92.2.16 東愛知)



他府県の協議会ニュースから

神奈川県「自然観察」91.12

・第3回自然観察関係団体懇話会の報告

11月16日、平塚市民センターで開会。事例報告会、懇親会等が行われ、翌17日は花水川高麗山探鳥会を実施した。

・エコロジー研修会&ハイキングの報告。

香川県「ネイチャーウォッチング」92.1

本の扉はお正月らしく出水市のマナズルの夫婦のカラー写真。和気俊郎さんの「原点にかえろう」という会の発展のための提言。あとはフィールドだよりや観察会のアンケート結果が載っている。

京都府「森の新聞」91.11

9月に行われた、石清水八幡宮での指導員講習会の特集号。全部で53頁の立派なものです。受講者の感想が載っており、我々が忘れかけた事が多く記載されています。その中で西村さんの文章を、スペースの関係で一部ですが、以下無断掲載します。

講習会に参加して 西村弘子

「ビックリ水を下さい。」スーパーに若い娘さんが「ビックリ水」を買いにきたらしい。店の奥さんがあっけにとられて、それは料理の時の差し水のことだと教えようと思ったけど、やめて「六甲の水」を売っておいたらしい。

とたんに講習会で聞いた、大学生がヒマワリとタンポポの区別がつかない話を思い出した。経験してない・・・親が子に教えてない・・・その考えが頭をよぎる。

先日、インディアンの47才の男性が来日してインディアンの笛の音の伝承は楽譜に書かず必ず実技で伝えると言う。楽譜に書けばその文化は死んでしまうと言う。

呼吸し身体を使って、親や先人が子供達に何を残し、何を伝えていくべきか、この事をじっくり考えさせてくれた講習会でした。・・・

(以下略)

編集後記

★1月中に各支部とも総会を終え、いよいよ1992年度の活動の開始です。

協議会の総会は3月22日(日)に名古屋駅前の中小企業センターで行われますのでお忘れなく。

★総会での楽しみは人との出会いです。特に、新しく会員になられた方との話は興味があります。自分の中に新しい世界が広がります。そこで・・・より世界が広がるように今年の総会は第二部として懇親会があります。現在、会を愛し酒を愛す運営委員が準備中です。大勢の方の参加をお待ちしています。大いに食べ、大いに飲み、ワイワイいいながら今年度の活動のために充電をしましょう。

★今号は、12ページ構成で編集を考えていました。ところが、投稿がいくつかあり、急遽16ページ構成に変更。(印刷及び製本の関係で4の倍数のページ数でなくてはならないという足かせがあります。)
「新聞スクラップ」等で増ページをしました。このような誤算は、嬉しい誤算。本当に、本当に有り難く、編集者としてやり甲斐を感じます。どうぞ、どしどし投稿してください。20ページでも100ページ(?)でもつくりますから・・・

次の39号の原稿締切りは4月10日です。

★「協議会ニュース」の編集を担当して2年目に入りました。今後の事を日夜考えています。例えば次の様な課題です。①如何にしたら会員から気楽に投稿してもらえるか。②350部を越す会員への発送をスムーズにできないか。またそれにかかる費用の問題。③自然に関する情報網を如何に充実するか。④月刊発行の必要性・移行は?⑤編集作業の簡素化を如何にするか。・・・などです。妙案がありましたらお教え下さい。

編集部会 〒440 豊橋市多米中町1-12-3

神戸 敦 ☎0532-62-5308

3月～5月の行事案内

*他支部の行事にも参加出来ますが、急な変更があるかもしれませんので照会の上、御参加下さい。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先

④行事のねらい ⑤参加資格・費用 ⑥備考

【3月8日(日)「森のはたらき」観察会】

①知多事務所 ②東海市農業センター10:00

③知多事務所・林務課(田村)

☎0569-21-8111

④農業センターの裏山の森の様子・小鳥・土壌生物等を観察しながら遊ぶ、温室を見学しよう

⑤一般・無料 ⑥名鉄河和線・太田川駅徒歩10分、北東1.5キロ

【3月8日(日)尾張支部月例観察会】

①尾張支部 ②定光寺駅 ③平井直人 ☎052-501-1020 ④瀬戸市定光寺 — 早春の動植物を観察しよう — マンサク・クロモジ・コツバメ・・・

【3月20日(金)猪高緑地観察会】

①名古屋支部 ②9:30

【3月22日(日)協議会総会】

②中小企業センター7F第3会議室

【3月29日(日)渥美の自然を守れ！

シデコブシ 講演と観察の会】

①渥美自然の会②渥美町中央公民館10:00～

③大羽康利 ☎053145-2607

④講演「遺存植物と地球の歴史」糸魚川淳二 観察会：泉福寺の森～栂のシデコブシ自生地

【3月29日(日)飯盛山観察会】

①西三河支部

【4月12日(日)尾張支部月例観察会】

①尾張支部 ②山口駅 ③北岡由美子☎0561

—84-2953 ④瀬戸市物見山 — ギフチョウ

・ツマキチョウ・コツバメ・・・

【4月12日(日)比丘尼城跡世界の桜観察会】

①奥三河支部 ②新城市富岡公民館10:00

【4月19日(日)「身近な所で春の野草を見よう」観察会】

①知多自然観察会 ②知多市大草公園駐車場 9:00

【4月26日(日)牛の滝観察会】

①県委託・東三支部 ②宝飯郡一宮町東上 10:00 ③中島芳彦 ☎0532-62-5053

【4月26日(日)ものみ山花見観察会&ものみ茶屋】

③北岡由美子 ☎0561-84-2953

④海上の里でぶらりと茶屋を覗いてくださるもよし、山に登り春爛漫の山桜・新緑を楽しむもよし、是非おいでください。ものみ茶屋は囲炉裏のある家で、抹茶・モンゴリナラ餅・コーヒーなどいろいろ楽しめます。

【5月8日(金)身近な野草の試食会】

①知多自然観察会 ②阿久比町中央公民館 19:00 ⑤200円

【5月10日(日)尾張支部月例観察会】

①尾張支部 ②名鉄善師野駅

③大竹勝 ☎0568-61-3659

④犬山市善師野 — 世界中で東海地方しかないモンゴリナラを見よう

【5月31日(日)「磯の生物」観察会】

①県委託・知多支部 ②美浜町野間大坊 10:00 ③県自然保護課

④春の磯の生物の様子を知ろう

⑥水に濡れてもよい服装

【5月31日(日)どうする自然・愛知万博シンポジウム】

①シンポジウム実行委員会 ②名古屋市公会堂 12:30 ③☎052-831-3559、0561-41-1466 ④海上の森は愛知万博の予定地となり危機を迎えています。私たちに何が必要か考えたい。内容 — ビデオ上映、南修二・

亀井敏彦・角橋徹也・牧野剛・金森正臣各氏の歌や講演など ⑥入場整理券500円